

新品種「新之助」について

～28年産試験販売の状況～

29年産本格デビューを迎える新品種「新之助」ですが、28年産では約500トンが生産され、試験販売と県によるプロモーション用として使用されています。

28年産米は、独自で設定した品質基準（整粒70%以上、玄米タンパク値6.3%以下、水分値14%以上15%以下）を全量クリアし、食味も大変良好な仕上がりになっています。

今回は試験販売の直近の状況を報告します。

<試験販売の状況>

非コシヒカリ系の最高級ブランド米をめざすという新潟県の方針にもとづき、県内及び三大都市圏（首都圏・中京・京阪神）の百貨店・高級スーパー・米穀専門店（お米マイスター）などを対象として、10月5日三越・伊勢丹の先行発売を皮切りに、10月20日以降順次販売が開始されています。（12月末まで。売切れ次第終了）

販売計画は県内・県外それぞれ150トン、店頭価格は県内が2kg1,250円、5kg3,000円、県外が2kg1,500円、5kg3,500円程度と魚沼コシヒカリと同水準で販売されています。

県内はマスコミ報道や店舗の折込チラシなどで県民への周知がはかられていることから新之助に対する関心が高く、計画した150トンのほとんどが10月中に出荷され、好調な販売となっています。

一方、県外（首都圏、中京、京阪神）では限られた売場展開となっており、県内ほど販売に勢いはないものの、概ね順調に推移しています。ただし、県内よりも一般消費者の認知度が低く、「ゆめぴりか」や「つや姫」に加え、他県産新品種「青天の霹靂」「銀河のしずく」などとの競合もあることから、新潟県と一体となって県外への周知をはかることが29年産に向けて大きな課題となっています。

全農では本県コシヒカリと並ぶ最高級銘柄米として、早期のブランド確立がはかれるよう、新潟県と連携して販売戦略・宣伝対策の検討を進めていきたいと考えています。



